

Handwritten text in a vertical strip on the left side of the page, possibly a title or author's name, written in a cursive script.



ハ重能撫路の浦乃乃欠ハ重能

撫路の言々乃欠九重子ソキヤ

詞

人々是ハ中將清隆也

清隆の仕へ中漢法乃三高也中

者ヨク人極も道なきハ清隆也

道母一築能子取よる乃巻

しよのひ部へ冬迎ぬぬ是也

新兵の手にあかしくせよわを
思召くあうをあ園柳うう乃
澳うう更り月乃報あうわ
力を投ずあうなわ折ひう
又船中をえを折まはうう
品くに祭乃祭をのう運
依程まうひな義由邪見をもら

只と邦へ上るは 氏程ハ歌子
住居ノ一列くうう適りあ
故々乃者のあみ引うんう
もあうあ祭者うう時雨あ
旅あうあ袖乃方袋うう
むひくう上るうわくあ
程よ是れりわあああう

五十一
二二
一一
一一
一一

詞

東心中の漢傳乃三の糸了也
うねくはくしん と詩 何ありはる

三高と中りあつめはるしや人

ともあひばかへ来るとんねん

ふはゆはるしあ乃は使ふとん

あつたのちこちん と詩 為はるし

あつたのち と詩 中と通る

あつたのち と詩 中と通る

あつたのち と詩 中と通る

あつたのち と詩 中と通る

あつたのち と詩 中と通る

あつたのち と詩 中と通る

あつたのち と詩 中と通る

あつたのち と詩 中と通る

あつたのち と詩 中と通る

早ももゆつゝのながさのこころのゆ
はる乾子 早 せんんんさよー築忠乃
川をさよ成ははしゝゝなゝくひひ
—の湧強心みおしめす様
類魚皮とさもろんゝぬささ乃
新兵乃手にかゝゝせよるをと
思及連はつゝの豊前國柳の浦の

渾よしく更行月乃英つゆわ

方を投てあゝくなわ折ひ了い

上方 何方哉なるをなを強ひしは

とやまゝめーやせめいハ討終

もーをまゝをさよ乃康の侍遊

一消が皮はゝゝ強恨もりは

通ひにゝあゝ力をあせ折ふる

く、の、な、は、な、わ、ら、ふ、あ、ら、い、の、ち、と、り
く、ま、ら、い、の、ま、も、り、の、し、と、り、な、が、ふ、せ、と
か、の、あ、ら、う、あ、ら、い、を、か、へ、何、こ、も、
り、の、あ、ら、い、の、ち、と、り、の、し、と、り、の、あ、ら、い、
人、目、を、し、ら、さ、る、や、と、の、の、く
う、ま、い、の、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、み、け、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、

か、の、な、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、
く、ま、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、

は、れ、形、見、乃、志、願、く、よ、繁、の、髪、を
残、一、遣、ま、さ、る、人、を、は、つ、つ、と、
は、ら、い、の、あ、ら、い、の、あ、ら、い、

何も思ふは雲水乃りもぬるも
濁浮乃故々よだもぬちる海の
り、^下開きよましく目に染いた
人を見たりよわ夢るぬもあ
道三つめくまじよし人
奇よつてあう万りわなう入
か^{ツ上カレ}むるおまじるや花のみえ

新ふあ実流種よきう下勢
まきしく力をなれもこの人は
存あなうるひしゆつてあ
下よー後なわともゆ海を見え
たまのあうおまじるよ
あをまじるあも男をすく
新ふ流子あし流りもなわらう

上ガレ

おもとなる人泣きの

あつらひに人をしらぬ
泣きと

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

上ガレ

おもと泣きのあつらひ

あつらひに人をしらぬ
泣きと

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

おもと泣きのあつらひ

九州山家の城へもあつた
東條とゆ——程まゝあつた
とわあつたもゆりたのき
少くも皇乃はる皇前國歌に
しふはははく 実や所もあは
えつる浦をな久木子柳信よ
惟初乃皇居をこたすうわ

字依ハ幡よ浪糸訪る
神馬七王其外是程程の扱物
おな帯乃為なるあは
中さふ残も男の恨み心
いふなはるもあつた
まみうーまはは代乃を
一門乃をももるい

侍方ひとわを松ト一さし
一がぶひふふふ
一松もは理とさくわ那
一なまよ能給乃告後申さく
一好く 採ま依ハ幡と糸籠
一様と新藝懐くぬのたのみを
一のき刀くもさく一きなくも

尺と一祇乃録の内とわあつた
一なまよ能給乃告後申さく
一世中子ま依ま神もなま物を
一何ののぬと女さく海はく一
一さわかとも世心も虫乃るも
一ぶりの果ぬる様乃常か
一佛神三寶も 松と竹ふと心

何うとも一門を去りて
下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下
地を去りて一車
びこく心違ふ
百核
に長つ國へも教向ふと
く皮又舟のしわなるを
厭く押し出す心乃うらるる哀なる

笑や世中の縁る夢うらるる
なも保之能衣乃兼衣水の縁乃
あふちわくになりて
一葉のつひな花や秋りうらるる
秋風乃遠をりかなふあも
志うき衣を神力ふかす
源氏物語をかりて

芽もさきし〜清煙ハ心
こゆ〜思〜あやう〜志も〜ハ幡
の点読道あり〜小〜き〜あ〜あ
乃〜海〜も〜り〜る〜乃〜直乃
か〜う〜人〜よ〜あ〜わ〜好〜ふ〜ら〜る〜し
一筋も思ひいと〜^上あち〜あ〜が〜や
迎前ゆ〜つ〜ま〜ほ〜遊〜衆〜方〜を〜猶〜を〜き

う〜何〜さ〜う〜ま〜を〜み〜浪〜よ〜後〜し
あ〜ま〜に〜た〜く〜ろ〜ひ〜了〜し〜所〜あ〜る
う〜ま〜め〜残〜え〜所〜あ〜乃〜沈〜み〜果〜む
思〜ひ〜き〜わ〜人〜よ〜ら〜い〜り〜く〜若〜代〜乃
ま〜所〜あ〜る〜や〜あ〜ら〜ほ〜ま〜ぶ〜月〜に
う〜あ〜く〜き〜た〜ゆ〜き〜あ〜ら
こ〜し〜ら〜あ〜ら〜あ〜る〜し〜ら〜わ

やうううぬまひくさるもじ
屋かゝ少貴殿くしやうを
うたひ郎初くく行末残
あううう張あはくあう波乃
帰るぬハソく定中のらぬ
く法くくよばせもそも藤う
くあうおしひ乃くさるや



能所めくく冬ひく少所狂人
人やんぬくまどくひく冬何
尺体免をくく巻くあか西
あうくくあまをくくハクヤ
五折もくくあも南無阿弥た佛
旅乃如来せうくあもあの人
くく一あうを完後く船より

心もも^レ後^ノ悔^ノ乃^レ底^ノのみをばか
志^ハは^レ見^ル越^ク浮^ル乃^レ果^ル出^ス一^トま
や^ハ心^ムも^レ我^ハ半^トも^レわ^ラぎ^キ子^ニ
沉^ル乃^レ雨^ノの^レ比^ヤ一^トわ^カる^ク
契^リな^キ一^トい^ハう^ニ彫^ルく^ク祭^テ落^ス
目^ハ一^トた^ラの^レ一^ト唇^ハあ^リつ^キ旅^ハも
が^リ一^トわ^カる^クを^レ一^ト備^ヘ死^ス乃^レ

幸^ハを^レ乃^レ一^トく^ク一^トた^ラま^キ教^ハあ^ルか^キ
象^ノ一^ト貴^ク月^ハ一^ト一^ト海^ハ山^ハを^レ鉄^ハ横^ハ字^ハ
族^ノを^レ一^トつ^キ々^ニ物^ハ博^ハの^レ海^ハを^レ扱^ルハ
取^ル見^ル乃^レ取^ルの^レ一^トわ^カる^ク一^トの^レ以^テ一^ト
道^ハ一^トを^レ一^ト無^クの^レも^レ一^ト性^ハも^レ一^ト免^ル
一^ト一^ト一^ト一^ト一^ト一^ト一^ト一^ト一^ト一^ト
下^ニ西^ニ海^ニ四^ニ海^ニの^レ因^ハ果^ハを^レ一^ト扱^ル一^ト是^ト

なまじやほゝ家後乃十念竟まぬ
法乃船下之儀見り
後ひもあききりも心も清淨の
心も心も清淨の佛果成り
心も心も清淨の佛果成り



